



TITLE:

京大広報 No. 391

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 391. 京大広報 1990, 391: 927-936

ISSUE DATE:

1990-05-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209286>

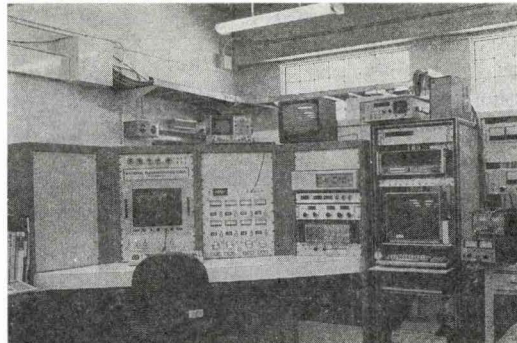
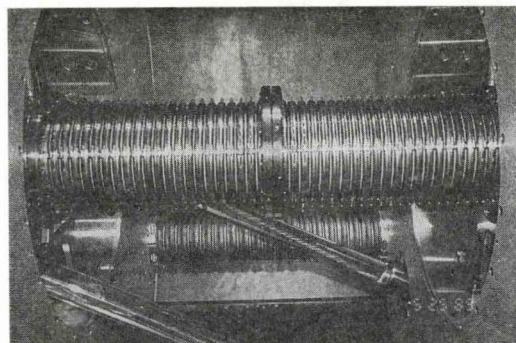
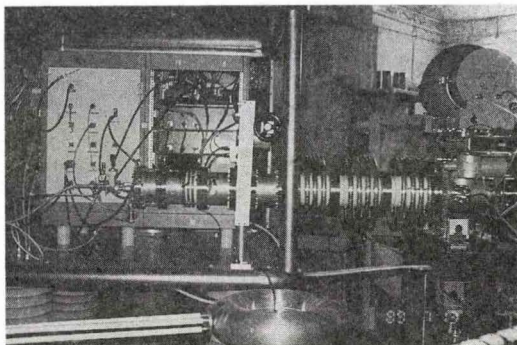
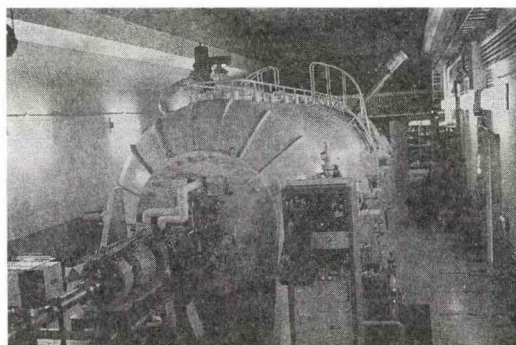
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 391

京都大学広報委員会



理学部物理学第二教室の更新されたタンデム・バンデグラーフ加速器
(左上：加速器本体，右上：イオン源，左下：新加速管，右下：制御デスク)

—関連記事本文 929 ページ—

目 次

<大学の動き>

西島総長，アメリカ合衆国を訪問…………… 928

<栄 誉>

河合雅雄名誉教授，坂井利之名誉教授が
紫綬褒章を受賞…………… 928

数理解析研究所 森 重文教授が
日本学士院賞を受賞…………… 928

<紹 介>

理学部物理学第二教室・
更新タンデム・バンデグラーフ加速器…………… 929

計 報…………… 930

<資 料>

平成2年度入学試験諸統計…………… 931

<随 想>

思い出すまに

名誉教授 中垣 正幸…………… 935

<コラム>

万葉集の富士

大型計算機センター教授 星野 聡…………… 936

日 誌…………… 936

＜大学の動き＞

西島総長、アメリカ合衆国を訪問

西島安則総長は、4月21日から、アメリカ合衆国ワシントンD.C.で開かれた「全米科学アカデミー第127回年次総会」(National Academy of Sciences, 127th Annual Meeting)、及びニューヨーク市における「高分子の科学・技術に関する国際シンポジウム」(International Symposium in Polymer Science and Technology)に出席、並びに学術国際交流を一層促進するため、同国を訪れ、5月4日に帰国した。

全米科学アカデミーの年次総会では、同会での「大学改革」についてのシンポジウム (University Reform: International Perspectives) において “University Reform—Partaking in Mission of the World's Academic Community” と題する基調講演を行うとともに、学術研究並びに科学技術に関わる日米間の諸問題について討論・意見交換を行った。

また、ヘルマン・マーク (Herman F. Mark) 教授の95歳の誕生日を記念して開かれた高分子の科学・技術に関する国際シンポジウムでは “Some Aspects of Polymer Research in Japan; From Pre-disciplinary to Poly-disciplinary with Geheimrat” と題する講演を行った。また、ポリテクニク大学 (Polytechnic University) プグリアレロ (George Bugliarello) 学長と共に、本



全米科学アカデミーの前庭にあるアルバート・アインシュタインの記念像

学と同大学との「学術交流に関する一般的覚書」に署名し、これを交換した。

なお、このたびニューヨーク市を訪れた機会に、ニューヨーク地域の京都大学同窓会「ニューヨーク洛友会」の会員と懇談し、京都大学の現状と創立100周年に向けての記念事業計画などについて話した。

今回の訪問には、渡部健吉広報調査課長が同行した。

＜栄 誉＞

河合雅雄名誉教授、坂井利之名誉教授が紫綬褒章を受賞

河合雅雄名誉教授 (元霊長類研究所教授 霊長類学) 及び坂井利之名誉教授 (元工学部教授 情報工学) に、わが国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより、平成2年4月29日紫綬褒章が授与された。

数理解析研究所 森 重文教授が日本学士院賞を受賞

このたび、数理解析研究所 ^{もり しげふみ} 森 重文教授に日本学士院賞が授与されることになった。授賞式は6月11日 (月)、日本学士院会館で行われる。

以下に同教授の略歴、業績等を紹介する。



森教授は、昭和26年2月23日、愛知県に生まれた。昭和48年、本学理学部を卒業、同50年本学大学院理学研究科修士課程を修了、同50年本学理学部助手、同55年名古屋大学理学部講師、同57年同大学理学部助教授、同63年同大学理学部教授を歴任の後、本年4月より本学数理解析研究所教授として大域解析学研究部門を担当している。

森教授は、一貫して代数幾何学の研究にとりこんできた。代数幾何学は、代数的手法により幾何学 (多様体) を研究する分野である。1次元多様体 (曲線或いは Riemann 面) については、Riemann に始まる研究により、既に前世紀に完成し

ている。それによれば、曲線はその種数によって分類される。2次元多様体については、今世紀初頭における Castelnovo らのイタリア学派による研究の後、小平邦彦氏（東京大学名誉教授）により深い研究がなされた。

今回の受賞は、森 重文教授と共に飯高 茂氏（学習院大学教授）、川又雄二郎氏（東京大学教授）の3氏の同時受賞となったが、これは上述の1・2次元多様体に対する深い研究を高次元の多様体の場合にも遂行しようとする試みに対するものである。

高次元多様体の研究は、1・2次元の場合に比して格段に困難である。そのよい例として、Hartshorne 予想がある。この予想は、森教授により肯定的に解決されたのであるが、これは射影空間を特徴づけようとするものである。これは最も単純な多様体に関する予想であるにもかかわらず、森教授が1979年に解決するまで、解決の方向づけすら得られていなかった。森教授の解決方法は、通常の複素数の世界から、有限体の世界（複素数と同様に数の世界を形づくるが、この世界では有限個の数しかない）に移行するというもので、余人の考えを越えたまったくすばらしいものであった。森教授はその後、その考えを発展させて、現在世に“森理論”と呼ばれる理論をうちたてた。

一方、高次元多様体の分類の問題は、まず飯高氏による“小平次元”の導入により、その端緒がひらかれた。この小平次元によりまず高次元多様体は大まかに分類される。しかし、更に研究を進めようとするとき、極小モデルの存在が重要な鍵となる。森教授は、川又氏の成果を用いて、3次元多様体における極小モデルの存在を証明した。これは、これからの高次元多様体の研究の基礎となるものと期待されている。

昭和58年日本数学会彌永賞、昭和59年中日文化賞、昭和63年日本数学会秋季賞（川又雄二郎氏と共同受賞）、平成元年井上学術賞、また本年度はアメリカ数学会 Cole 賞を受賞している。

以上のような森教授の目覚ましい業績によって、今般、学士院賞を受賞されることは誠によるこぼしい。今後の同教授の研究の発展を期待したい。

（数理解析研究所）

< 紹 介 >

理学部物理学第二教室・

更新タンデム・バンデグラフ加速器

はじめに更新のいきさつについて、この計画の旗上げともいうべき昭和57年1月18日開催のシンポジウムの序言を引用しよう。

「京都大学理学部物理学第二教室のタンデム・バンデグラフ加速器は昭和37年に予算が認められて以来、世界では極めて数少ないホームメイドマシンとして、多くの技術的困難を克服し、昭和45年頃からは連続運転に対して効率よく稼働して現在に至っている。この間多くの類似のマシンの中で特徴を持たせるべく重イオンと偏極イオンの加速に重点がおかれ、原子核反応と構造に関する数十編の論文が欧文雑誌に公表され、それによって理学博士の学位を得た者は10名を越え、またマシンタイムの一部を学内学外の研究者との共同研究にも開放するなど核物理の研究と教育に多くの寄与をしてきた。…(中略)…京都大学理学部のタンデム・バンデグラフは建設後10数年を経過して装置として老朽化しつつあるが、この規模のタンデム・バンデグラフそのものは核物理研究用としてエネルギー可変性、ビーム特性において（エネルギーの一様性、向きの揃った空間的構造、時間的に一様な強度等）精密測定に最も適した加速器であり、核構造の解明にとって欠かせない存在価値をもっている。また、1970年代に入っていかわゆる学際領域における新技術（チャネリング、ピクシー、質量分析等）の発展が目覚しく宇宙・地球科学、考古学、物質科学あるいは生物学、医学など多方面で利用の必要性が急速に高まってきている。このような学際領域においては、常に新しい問題に遭遇し、技術と経験を蓄積していかなければならないので、フレキシブルな利用のできるマシンを身近にもつことが本質的に重要である。

一方、教育的見地からみれば共同利用研究所の大型マシンのみでは、大学院学生（特に修士課程）及び学部学生の教育には不十分であり、充分な運転時間を持ち、自ら失敗しつつ学ぶことが実力ある研究者の養成に欠くことができない。われわれとしてはこの際、構想を新たに、タンデム・バンデグラフの更新を計画した。現在の

情勢と過去の教訓に鑑み、この際いたずらなスケールアップを避け、使い易さと信頼度を第一として定評ある商用マシンを既存の施設内に導入することが最も賢明と思われる…（以下略）

このようにして更新計画がスタートしたが、幸いにして昭和62年度より予算（総額8.3億円、3ヶ年計画）が認められ、本年3月をもって完成にこぎつけた。現在仕上げの段階に入っており、本年9月より実験が再開することになる。

旧タンデム・バンデグラフは、終りの5年ほど専ら学部学生の教育、学際領域の研究に用いられていたが、その頃実験に参加した学生から、このマシンはいつできたのかと聞かれ、昭和37年と答えると「ええっ、それじゃ僕より年寄りなんだ」といわれたのは、さすがにショックであった。核反応という未知との遭遇に好奇心に目を輝かして入ってくる新しい学生達に、規模は小さくても、それなりに新鋭のマシンを使わせてやりたいというのは私達だけの希望ではなからう。また一大学の設備としての適正規模ということで、予算を切り詰めるため旧施設をできるだけ利用するようにし、また建物など更新しないことにした。当時視察に来られた文部省のK研究助成課長に、古い建物をみて「先生の御要求は心は錦ということですね」といわれたのが懐かしい思い出である。

建物は古いままであるが、一度中に入るとVAXを中心とする最新式のデータ処理装置やコンパクトな計算機制御のコントロール・デスクなどが目に入る。また本体室ではすっかり更新された負イオン入射系が見え、タンクは古いままであるが、中味は全部新品で軽快な二連のベレット・チェーンの回転音がきこえる。また昔懐かしい油拡散ポンプの姿は全くなく、イオン・ポンプ、ターボ分子ポンプがならんでいる。マシンは米国NEC社製の8UDH ベレトロンで、本年のはじめに行われた性能試験の結果は次の如くである。

高電圧発生試験：カラム単独 9.8 MV

加速器組込 8.7 MV

ビーム加速試験：

分 析 イオン	電 荷	エネ ルギ	分析後 電 流	負イオ ン電流	入射電 圧
陽 子	1+	5.17 MeV	5.5 μ A	16.7 μ A	170 KV
陽 子	1+	16.18 MeV	5.5 μ A	7.5 μ A	180 KV
シリ コ	7+	64.00 MeV	5.2 μ A	3.7 μ A	180 KV

25年間の加速器技術の進歩は目覚しく、上記の結果は組み立ててから極めて短期間に実現したのは驚きである。この新タンデムのマシンタイムは、核物理（40%）、学際（40%）、教育（20%）の各分野に割り当てられる。

広汎な利用に備えて3月よりユーザーズ・ミーティングが月1回行われ、その都度タンデム・ニュースが発行されている。ビーム・コースの整備は理学部物理学教室のみならず、工学部原子核工学教室、放射性同位元素総合センター、奈良女子大学、京都府立大学などの研究者が協力してあっている。

最近の諸科学での加速器利用の多様化に伴い、この加速器の利用価値を一層高めるため、高エネルギー物理学研究所（KEK）の協力を得て偏極イオン源の増設や加速器質量分析（AMS）用専用イオン源の新設も検討されている。9月からの本格的運転を迎えて着々と整備が進んでいるのを見ると、若い人々の活躍に期待し、思いもかけぬ成果がでてくるのではないかと胸ふくらむ思いである。（理学部）

計 報

田 村 豊 名誉教授

本学名誉教授田村 豊先生は、5月7日逝去された。享年93。

先生は、大正9年京都帝国大学工学部を卒業、本学講師、助教授を経て、昭和3年農学部教授に就任、同35年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。この間、27年5月から29年4月まで京都大学評議員をつとめられ、大学の管理運営に貢献された。

先生の専門は農業機械学で、中でも飼料調製機の研究において数多くの優れた研究業績を残された。主な著書に『農業牽引車』、『牽引車工学』等がある。

これら一連の研究活動、学術上の貢献に対し、昭和45年には勲二等瑞宝章が授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（農学部）

<資 料>

平 成 2 年 度 入 学 試 験 諸 統 計

1. 募集人員, 志願者数, 合格者数, 入学者数, 合格者最高点・最低点(総点)等調

学 部・日 程	募集人員	志願者数	第1段階 選 抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点	
								最高点	最低点
文 学 部	前期	190	625	618	613	222	700	547.08	446.58
	後期	30	517	216	93		700	537	462.75
教育学部	前期	40	146	145	142	68	900	722.74	620.41
	後期	20	151	151	96		1,000	668.82	600.99
法 学 部	前期	340	1,031	1,030	1,018	390	750	589.5	475.75
	後期	60	655	485	184		500	408.5	365
			69	36	30	15			
経 済 学 部	前期一般	150	526	526	518	259	800	617.25	525
	前期論文	60	765	270	266		1,050	755.75	548.5
	後期	40	461	239	94	1	950	582.15	444.25
			45	18	16				
					7				
理 学 部	前期	276	1,283	1,257	1,241	306	650	532	396
	後期	30	1,376	1,346	945		400	311	254
医 学 部	前期	90	439	405	397	99	1,250	1,058.25	918.25
	後期	10	207	199	123		1,250	907.5	819
薬 学 部	前期	60	174	174	168	89	1,000	802.16	696.66
	後期	20	145	145	73		850	619.08	515.66
工 学 部	前期	626	2,098	2,029	2,021	1,041	1,000	870.58	649.75
	後期	414	2,757	2,740	1,714		1,000	792.58	612.75
農 学 部	前期	260	778	778	765	333	1,050	855.83	644.66
	後期	65	551	550	312		810	590.26	472.8
小 計	前期	2,092	7,865	7,232	7,149				
	後期	689	6,934	6,125	3,680				
合 計		2,781	14,799	13,357	10,829	2,877	2,823		

(備考) 1) 法学部, 経済学部後期の下段は, 外国学校出身者のための入学者選考を示す。

2) 合格者数には追加合格者を含む。

3) 合格者最高点・最低点(総点)は, 前期(3月9日), 後期(3月23日)の合格発表時のもので, 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

＜工学部・農学部学科別内訳＞

学部・日程・学科		募集人員	志願者数	第1段階 選 拔 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	満 点	総 点	
									最高点	最低点
工 学 部	前期	626	2,098	2,029	2,021	626	1,041	1,000	870.58	649.75
	後期	414	2,757	2,740	1,714	427			792.58	612.75
土木系学科	前	75	260	260		75	125	1,000	781	670.91
	後	50	356	354		52			709.33	621.41
機械系学科	前	52	162	162		52	86		784.16	691.83
	後	35	230	229		35			751.91	626.75
電気系学科	前	80	238	238		80	130		870.58	711.16
	後	50	272	270		50			734.66	629.91
金属系学科	前	50	190	175		50	80		759.25	673.75
	後	30	185	185		32			731.75	617.25
建築系学科	前	55	175	174		55	95		820.5	684
	後	40	237	236		42			785.58	619.66
工業化学科	前	35	114	114		35	55		845.16	667.75
	後	20	135	135		20			775.83	661.83
石油化学科	前	35	154	123		35	55		740.33	649.75
	後	20	182	181		22			697.58	627.16
化学工学科	前	32	121	112		32	54		775.91	656.5
	後	22	156	156		23			764.33	617.5
高分子化学科	前	25	75	75		25	45		780.16	650.58
	後	20	128	128		20			739.41	625.91
合成化学科	前	27	89	89		27	45		775.25	671.83
	後	18	142	140		19			783.5	643.5
資源工学科	前	25	94	88		25	40		783.33	650.5
	後	15	93	92		15			698.25	612.75
航空工学科	前	15	48	48		15	25		817.41	725.16
	後	10	116	115		10			787.58	619.91
原子核工学科	前	15	41	40		15	25		797.08	688.91
	後	10	85	82		10			705.41	637.5
衛生工学科	前	25	80	80		25	46		803.83	670.33
	後	20	119	119		21			768.5	657.33
数理工学科	前	27	86	86		27	45		819.91	698.66
	後	18	103	102		18			767.91	629.83
精密工学科	前	25	94	88		25	44		813.75	699.75
	後	18	120	119		19			723.75	614.75
情報工学科	前	28	77	77		28	46		815.16	719.5
	後	18	98	97		19			792.58	641.58
農 学 部	前期	260	778	778	765	277	333	1,050	855.83	644.66
	後期	65	551	550	312	69		810	590.26	472.8
農 学 科		20	(前期 16名 後期 4名)				21			
林 学 科		20	(前期 16名 後期 4名)				20			
農 芸 化 学 科		74	(前期 60名 後期 14名)				72			
農 林 生 物 学 科		15	(前期 12名 後期 3名)				16			
農 業 工 学 科		41	(前期 33名 後期 8名)				42			
農 林 経 済 学 科		35	(前期 28名 後期 7名)				36			
水 産 学 科		23	(前期 18名 後期 5名)				24			
林 産 工 学 科		34	(前期 27名 後期 7名)				37			
食 品 工 学 科		38	(前期 30名 後期 8名)				38			
畜 産 学 科		25	(前期 20名 後期 5名)				27			

2. 志願者・入学者 出身高校所在都道府県別調

上段……………志願者数

下段……………入学者数

学部		文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	計
都道府県											
北海道	北 海 道	16	5	20	24	56	11	4	49	8	193
	青 森	3		7	4	11			10	5	40
	岩 手	5		4	4	3	1		3	1	21
	宮 城	4	1	5	10	22	2	1	16	2	63
	秋 田	7		4	3	10	3	2	9	4	42
	山 形	4	1	5	2	8	2		9	3	34
	福 島	5	1	3	5	14	5	1	8	4	46
	茨 城	7	4	14	10	39	6	2	39	8	129
	栃 木	8		9	10	20	1	2	11	4	65
	群 馬	11	6	14	9	25	3	3	23	9	103
関東	埼 玉	22	7	33	41	88	8	3	99	25	326
	千 葉	28	5	48	49	112	11	9	118	35	415
	東 京	131	38	113	146	311	54	13	288	118	1212
	神奈川	44	18	65	70	169	6	10	181	68	631
	新 潟	8		8	17	39	3		32	2	109
	富 山	10	2	21	10	24	4	4	36	18	129
	石 川	19	3	7	10	22	8	2	40	14	125
	福 井	15	6	18	22	12	6	1	32	9	121
	山 梨	6		4	9	7		1	12	2	41
	長 野	17	4	13	16	44	2	9	37	7	149
中部	岐 阜	20	2	26	24	25	5		61	10	173
	静 岡	18	1	20	31	62	9	7	65	19	232
	愛 知	66	16	99	96	182	34	8	340	69	910
	三 重	15	4	16	18	36	6	6	38	3	142
	滋 賀	25	5	21	35	43	7	7	87	29	259
	京 都	93	26	181	189	172	70	37	513	163	1444
	大 阪	182	55	368	369	389	97	80	1087	312	2939
	兵 庫	80	28	178	174	154	114	34	506	130	1398
	奈 良	52	12	71	73	86	34	15	293	50	686
	和歌山	15		14	16	16	7	1	38	12	119
近畿	鳥 取	8	3	8	3	5	5	1	18	9	60
	島 根	8	3	10	12	9	4	3	22	6	77
	岡 山	23	4	32	32	41	7	14	97	17	267
	広 島	37	11	32	28	55	11	9	168	25	376
	山 口	5	2	11	8	30	2	4	47	10	119
	徳 島	4		11	7	8	5	3	17	3	58
	香 川	13	2	30	11	29	14		56	2	157
	愛 媛	17	2	22	19	20	18	2	45	19	164
	高 知	5		8	9	20	3	1	12	9	67
	福 岡	21	11	58	52	108	16	5	150	18	439
九州	佐 賀	3		6	5	7	1		12	1	35
	長 崎	11	1	5	6	12	4	3	20	8	70
	熊 本	6		12	10	27	5	2	16	11	89
	大 分	7		6	3	13	2	3	14	2	50
	宮 崎	3		10	7	6		2	15	3	46
	鹿 児 島	19	6	8	25	32	18	3	50	30	191
	沖 縄				1	9	1		3	1	15
	検 定	16	2	7	18	27	10	2	12	12	106
	そ の 他			70	45		1		1		117
	合 計	1142	297	1755	1797	2659	646	319	4855	1329	14799
		222	68	405	260	306	99	89	1041	333	2823

(備考) 1) 外国学校出身者のための選考を含む。

法 学 部……………志願者 69名, 入学者 15名

経済学部……………志願者 45名, 入学者 1名

2) 高等専門学校出身者は, 高等専門学校の
所在都道府県に含む。

3. 志願者・入学者 入学資格取得年別調

検…入学資格検定合格者, 専…高等専門学校出身者, 他…高校, 高専, 検定以外の者

学部	志 願 者							入 学 者						
	総 数	現 役 2.3卒	元.3卒	浪 人 63.3卒	62.3卒	61.3以前		総 数	現 役 2.3卒	元.3卒	浪 人 63.3卒	62.3卒	61.3以前	
文学部	1,142	627	387	74	18	36		222	127	80	13	1	1	
	女 311 検 16	女 219 検 9	女 84 検 6	女 3	女 3	女 2 1		女 74 検 1	女 59	女 14 1	女 1			
		54.9		45.1					57.2		42.8			
教育学部	297	139	112	24	13	9		68	34	30	3	1		
	女 87 検 2	女 52	女 29 2	女 3	女 2	女 1		女 23	女 16	女 7				
		46.8		53.2					50.0		50.0			
法学部	1,755	1,063	517	107	22	46		405	256	130	13	2	4	
	女 276 検 7 専 4 他 70	女 204 検 5 他 69	女 56 1 専 1	女 9 専 1		女 7 2 1 専 1		女 84 専 1 他 15	女 68 他 15	女 15	女 1		専 1	
		60.6		39.4					63.2		36.8			
経済学部	1,797	944	565	188	47	53		260	146	90	15	4	5	
	女 158 検 18 他 45	女 105 検 6 他 45	女 40 8	女 9 1	女 1	女 3 3		女 32 1 他 1	女 20 1 他 1	女 9	女 2		女 1	
		52.5		47.5					56.2		43.8			
理学部	2,659	1,454	665	272	103	165		306	177	117	9	3		
	女 206 検 27	女 105 検 10	女 51 10	女 23 2	女 7 4	女 20 1		女 22	女 9	女 13				
		54.7		45.3					57.8		42.2			
医学部	646	238	133	68	31	176		99	42	39	9	2	7	
	女 98 検 10 専 1 他 1	女 44 検 2	女 20	女 9 1	女 4 1	女 21 6 1 1		女 16	女 9	女 6	女 1			
		36.8		63.2					42.4		57.6			
薬学部	319	159	128	14	3	15		89	42	44	2		1	
	女 95 検 2	女 55 検 1	女 30 1	女 5	女 2	女 3		女 27	女 16	女 11				
		49.8		50.2					47.2		52.8			
工学部	4,855	2,777	1,664	267	66	81		1,041	575	426	35	3	2	
	女 181 検 12 専 2 他 1	女 69 検 4 専 1	女 80 4 他 1	女 22 2	女 2	女 8 2 1		女 38 1	女 12	女 22 1	女 4			
		57.2		42.8					55.2		44.8			
農学部	1,329	618	479	145	40	47		333	153	148	22	6	4	
	女 211 検 12 専 1	女 134 検 4	女 61 7	女 10 1	女 2	女 4 専 1		女 61 2	女 40	女 20 1	女 1 1			
		46.5		53.5					45.9		54.1			
合計	14,799	8,019	4,650	1,159	343	628		2,823	1,552	1,104	121	22	24	
	女 1,623 検 106 専 8 他 117	女 987 検 41 専 1 他 114	女 451 39 1 他 1	女 93 7 1	女 23 5	女 69 14 5 専 2		女 377 5 1 他 16	女 249 1 他 16	女 117 3	女 10 1		女 1 専 1	
		54.2		45.8					55.0		45.0			

(備考) 外国学校出身者のための選考を含む。 法 学 部……志願者 69名, 入学者 15名
 経済学部…… 〃 45名, 〃 1名

洛書

田子の浦ゆ う
ち出でて見れば
真白にぞ 不盡の
高嶺に 雪は降り

ける (巻3の318番)

有名な山辺赤人のこの歌は、彼が東国での勤務を終えての帰路、駿河湾を西に進む船で富士を詠んだものだと、私は思うのである。赴任の旅と違って、務めを果たした安堵や都に上る嬉し気で気分も軽く、歌を詠むゆとりがあったのであろう。

さて、この歌によると、田子の浦から漕ぎ出す迄は、どうも富士が見えていないらしい。ところで、ある場所から富士が見えるかどうかは、コンピュータで景観を表示させればわかる筈である。

そこで、実際にやってみた。しかし、船出の地に相応しい田子の浦浜でも三島の市内でも、前方の愛鷹山が富士山を完全に隠して呉れないのである。流石に高い山である。私は困ってしまった。

晝見れど 飽かぬ田子の浦 大君の命恐み
夜見つるかも (巻3の297番)

題詞の説明によると、これは田口益人大夫が上野の国に赴任の途中、今の興津で詠んだ歌である。彼も明らかに西へ向かっているが、これは一旦都に上らなくてはならぬからである。歌

に「夜」と言うのは、真夜中ではあるまい。薄明から日の出迄を指すのであろう。夜明け前に漕ぎ出せば朝風ぎで海路が安全なのである。次の歌はその例である。

朝風に 真楫漕ぎ出て 見つつ来し 御津の
松原 波越しに見ゆ (巻7の1185番)

私は突然、思い当たった。「漕ぎ出す頃は、暗くて富士が見えなかったのかも知れない。」

三月も末のある日、富士市のホテルで夜明け前の富士を見つめていた。パソコンの計算では、有明の月はなく、6時が日の出である。

午前5時、夜空にかすかな青が混じり、目を凝らすと愛鷹山の稜線が見え出した。しかし、富士は夜空に埋もれている。

それから5分ばかりで、あたりは急に明るさを増した。一様に薄墨色の富士の上部をガスが覆っている。やがてガスが東に移って頂きが現われると、それに朝日が射してくる。そして、山肌の雪の白さと線状の彫りの陰影が、始めてはっきり分かるようになる。時折ガスが懸かっては、また消える。

もう、近くの露地や木々の濃淡、山並の重なりも見分けられる。しかし、富士の裾野はやはり霞の中にある。私は満足だった。この情景は田子の浦の歌によく合っている。富士は、もう春だった。

(ほしの さとし 大型計算機センター教授)

万葉集の富士

星 野 聰

日 誌

(1990年4月1日～4月30日)

- | | | | |
|------|---|---------|---|
| 4月2日 | ドイツ連邦共和国Alexander von Humboldt財団 Reimar Lüst 総裁ほか3名来学、総長及び関係教官と懇談 | 17日～20日 | か2名来学、総長及び関係教官と懇談
新採用職員研修 |
| 6日 | 名誉教授称号授与式 | 19日 | 中国科学院 孫 鴻烈 副院長ほか1名来学、総長及び関係教官と懇談 |
| 7日 | 医療技術短期大学部入学式 | 〃 | カナダ McMaster 大学 Alvin Lee 学長ほか3名来学、総長及び関係教官と懇談 |
| 〃 | 医療技術短期大学部名誉教授称号授与式 | 〃 | 連合王国 Sussex 大学 Donald Winch 教授ほか1名来学、総長及び関係教官と懇談 |
| 9日 | アメリカ合衆国 Tennessee 州立大学 Lamar Alexander 学長ほか3名来学、総長及び関係教官と懇談 | 20日 | 防火委員会 |
| 〃 | 連合王国 ロンドン大学 Imperial College, Eric Ash 学長ほか2名来学、総長及び関係教官と懇談 | 21日 | 総長、全米科学アカデミー年次総会出席並びに高等教育・研究機関の実情調査のため、アメリカ合衆国を訪問(5月4日まで) |
| 11日 | 学部入学式 | 26日 | 発明審議委員会 |
| 〃 | 大学院入学式 | 27日 | 同和問題委員会 |
| 17日 | 評議会 | 〃 | 体育指導センター管理運営委員会 |
| 〃 | ドイツ学術交流会 Karl Roeloffs 事務総長は | | |